Ruthor 野口、和行(Noguchi, Kazuyuki) Publisher 夢原義致大学 Publication year 2020 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) Abstract 本研究では、様々な障害や疾患、または経済的な問題や家庭の問題などにより、必要となる特別な配慮や支援を必要とする人たちを対象としたキャンプ(スペシャルニーズ・キャンプ、以下SN C)実施による教育的効果と課題を明らかにすることを目的とした。 キャンプを実施する団体、青少年教育施設、特別支援学校等のステークホルダーを対象としたインタビュー機士として、ラヤンブース、保護者、スタッフがそれぞれを募重することの機々な国ュュニティの人と一緒に学校の教育評価とは違う評価があれる野外での実体験、成功体験を積み重ねることで関係者の自己肯定感が高まること。②学生ボランティアを中心としたスタッフが新しい発起で様々な課題を判別えることがキャンプ(関がりのある子のご両親の高齢化問題。多能数となること。②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること。②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること。②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること。②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること。②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験により決生力が書まることが挙げられた。課庭としては、②キャンプを継続する難しさ。②階がいのある子のご両親の高齢化問題。施設・道筒面の課題が挙げられた。現在の傾向として安全恋问、失敗させない文化、共働を解析となり、自分の子どもの世話だけで精・みな面など、スペシャルニーズのある子どもと社の民党を消費する。家族や学生スタップがキャンプを通して見っけた課題を、キャンプ後に解決を目指すことも多いため、スペシャルニーズのある子どもと社の課題を呼び入り、一方を持ちれた。よの大きが大きなと思われる。下中 purpose of this study was to identify the educational benefits and challenges of implementing special needs camps (SNCs) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems. An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs schools to discuss the potential of the camps. The appeal of SNC is that (1) campers, parents, and staff respect each other; (2) the sense of self-affirmation of those involved is enhanced by accumulating real and successful outdoor experiences with people from various communities that are evaluated differently from the educational evaluations of schools; (3) the staff, mainly student volunteers, overcoming various issues with new ideas is an inspiring experience not only for campers but also for parents and staff. (4) people who are not involved in the camp are involved in the camp and the power of coexistence is enhanced by the experience of sharing concerns and connecting with like-minded people. The callenges to contin	Title	特別な支援を必要とする人たちを対象としたキャンプの教育的効果と課題
Publication year Jutic 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) JaLC DOI Abstract 本研究では、様々な障害や疾患、または経済的な問題や家庭の問題などにより、必要となる特別な配慮や支援を必要とする人たちを対象としたキャンプ(スペシャルニーズ・キャンプ、以下SN C)実施による教育的効果と課題を明らかにすることを目的とした。キャンプを実施する団体、青少年教育施設、特別支援学外等のステークホルダーを対象としたインタビュー調査とフォーラムを実施して、キャンプの可能性について講論を深めた。SNCの魅力として、0キャンパー、保護者、スタッフがキャでの実体験、成功体験を積み重ねることで関係者の自己肯定感が高まること。②学生ボランティアを中心としたスタッフが新しい発想で様々な課題を実り加えることがキャンプ、関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること。②当者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験とより共生力が高まることが学げられた。 「表現しては、0キャンプを継続する難しき ②博がいのある子のご両親の高齢化問題 ③施設・通常面の課題(スタッフの質と数・資金面、医療(アレルギー)面・パリアフリー・文化(宗教)面等の課題が挙げられた。現在の傾向として安全たり、失敗させない文化、共働者を終めであると、3、実在の傾向として安全たり、大敗させない文化、共働者を終めである。な終を体制の支援学校の仲間と心ある指導者の中げては生きられないという課題を挙げられる。家族や学生スタッフがキャンプを通して見っけた課題を、キャンプ後に解決を目指すことも多いため、スペシャルニーズのある子どもどもの場場づく10の一助として、子どもに関わるステークホルダーとさらに選携を深めていく必要があると思われる。The purpose of this study was to identify the educational benefits and challenges of implementing special needs camps (SNCS) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems. An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs a schools to discuss the potential of the camps. The appeal of SNC is that (1) campers, parents, and staff respect each other; (2) the sense of self-affirmation of those involved is enhanced by accumulating real and successful outdoor experiences with people from various communities that are evaluated differently from the educational evaluations of schools; (3) the staff, mainly student volunteers, overcoming various issues with new ideas is an inspiring experience not only for campers but also for parents and staff, (4) people who are not involved in the camp are involved in the camp, and the camp; (2) the apign of parents of children with disabilities, and (3) challenges in terms of facilities and management (quality and number of staff, funding, medical altergy), barrier-free, and cultural (religious) aspects. Since families and student staff o	Sub Title	Educational benefits and challenges of camps for people with special needs
Publication year Jutile 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) Abstract 本研究では、様々な障害や疾患、または経済的な問題や家庭の問題などにより、必要となる特別な配慮や支援を必要とする人たちを対象としたキャンプ(スペシャルニーズ・キャンプ、以下SN C) 実施による教育の効果と課題を明らかにすることを目的とした。 キャンプを実施する団体、青少年教育施設、特別支援学校等のステークホルダーを対象としたインタビュー調査とフォーラムを実施して、キャンプの可能性について議論を深めた。 SNCの魅力として、①キャンパー、保護者、スタッフがキれぞれを尊重すること ②様々なコミュニティの人と一緒に学校の教育評価とは違う評価があるれる野外での実体験・成功体験を積み重ねることで関係も同自己肯定感が高まること ②学生ボラシティアを中心とスタッフが新しい 発想で様々な課題を乗り越えることがキャンパーはもちろん保護者、スタッフも心揺さぶられる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験により共生力が高まることが挙げられた。課題が呼ばいめるそのご両親の高齢化問題(添設)重賞面の課題(スタッフの質と数・資金面・医療アレルギー)面・パリアリー・文化(宗教)面等の課題が挙げられた。現在の傾向として安全志向・失敗させない文化、共働を時代となり、自分のチビもの世話だけるなど、スペシャルニーズのあるチゼもと生人大きな溝があり、家族や等担えクッフがキャンプを通して見つけた課題を、キャンプ後に解決を目指すことも多いため、スペシャルニーズのあるチゼもがよりよく育っための環境づくりの一助として、子どもに関わるステークホルダーとさらに連携を深めていく必要があると思われる。 The purpose of this study was to identify the educational benefits and challenges of implementing special needs camps (SNCs) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems. An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs schools to discuss the potential of the camps. The appeal of SNC is that (1) campers, parents, and staff respect each other; (2) the sense of self-affirmation of those involved is enhanced by accumulating real and successful outdoor experiences with people from various communities that are evaluated differently from the educational evaluations of schools; (3) the staff, mainly student volunteers, overcoming various issues with new ideas is an inspiring experience not only for campers but also for parents and staff. (4) people who are not involved in the camp included: (1) difficulties in continuing the eamp; (2) the aging of parents of children with disabilities; and (3) challenges in terms of facilities and management (quality and	Author	野口, 和行(Noguchi, Kazuyuki)
Jaic DOI Abstract 本研究では、様々な障害や疾患、または経済的な問題や家庭の問題などにより、必要となる特別な配慮や支援を必要とする人たちを対象としたキャンプ(スペシャルニーズ・キャンプ、以下SN C)実施による教育的効果と課題を明らかにすることを目的とした。キャンプを実施する団体、青少年教育施設、特別支援学教育のステークホルダーを対象としたインタビュー調査とフォーラムを実施して、キャンプの可能性について議論を深めた。SNCの魅力として、①キャンパー、保護者、スタップがそれぞれを募重すること。②様々なコミュニティの人と一緒に学校の教育評価とは違う評価があるれる野外での実体験・成功体験を積み重ねることで関係者の自己肯定感が高まること《愛学生ポランティアを中心としたスタップが新しい発想で様々な課題を乗り越えることがキャンパーはもちろん保護者、スタッカルと一緒に学校の教育評価とは違う評価があるれる野外での実体験・成功体験を積み重ねることで関係者の自己肯定感が高まること《愛学生ポランティアを中心としたスタップが新しい発想で様々な課題を乗り越えることがギャンパーはもちろん保護者、スタッカーと地程さぶられる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わい、デリアフリー・文化(宗教)面等の課題が挙げられた。現在の傾向として安全な声の・失敗させない文化、共働きがら出身のの課題を挙げられる。家族や学生スタッフの質と数・資金面、医療(アレルギー)面・パリアフリー・球化(なり、自分の子どもの世話だけで精一杯な面など、スペシャルニーズのある子どもだよりよく育つための環境づくりの一助として、子どもに関わるステークホルダーとさらに連携を深めていく必要があると思われる。家族や学生スタップオキャンプを通りで見つけた課題を、キャンプ後に解決を目指すことも多いため、スペシャルニーズのある子どもがよりよく育つための環境づくりの一助として、子どもに関わるステークホルダーとさらに連携を深めていく必要があると思われる。The purpose of this study was to identify the educational benefits and challenges of implementing special needs camps (SNCs) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems. An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs schools to discust suce with new ideas is an inspiring experience of self-affirmation of those involved is enhanced by accumulating real and successful outdoor experiences with people from various communities that are evaluated differently from the educational evaluations of schools: (3) the staff, mainly student volunteers, overcoming various issues with new ideas is an inspiring experience on tonly for campers but also for parents and staff. (4) people who are not involved in the camp are involved in the camp, and the power of coexistence is enhanced by the experience of staff, funding, medical (allergy), barrier-free, and cultural (religious) aspects. Since families and student staff	Publisher	慶應義塾大学
Abstract	Publication year	2020
本研究では、様々な障害や疾患、または経済的な問題や家庭の問題などにより、必要となる特別な配慮や支援を必要とする人たちを対象としたキャンプ(スペシャルニーズ・キャンプ、以下SN C)実施による教育的効果と調整を明らかにすることを目的とした。 キャンプを実施する団体、青少年教育施設、特別支援学校等のステークホルダーを対象としたインタビュー調査とフォーラムを実施して、キャンプの可能性について議論を深めた。SNCの魅力として、①キャンパー、保護者、スタッフがそれぞれを尊重すること ②様々なコミュニティの人と一緒に学校の教育評価とは違う評価があふれる野外での実体験・成功体験を積み重なることで関係者の自己肯定感が高まること ②学生ボランティアを中心としたスタッフが新しい発想で様々な課題を乗り越えることが半ずられた。 課題としては、①キャンプを継続する難しさ ②学生ボランティアを中心としたスタッフが新しい発息でより独立の人がつながる経験となること、①当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験とよりに、①キャンプを継続する難しさ ②障がいのある子のご而数の高齢化問題 ②施胶・選盟「首面の課題(スタッフの質と数・資金面・医療(アレルギー)面・パリアー・文化(宗教)面等の課題が挙げられた。現在の傾向として安全志向・失敗させない文化・共働き時代となり、自分の子どもの世話だけで精一杯な面など、スペシャルニーズのある子どもと社会に大きな溝があり、家族や特別支授校の仲間といるる指導者の中だけでは生きられないという課題も挙げられる、家族や学生スタッフがキャンプを通して見つけた課題を、キャンプ後に解決を目指すことも多いため、スペシャルニーズのある子どもがよりよく育立ための環境づくりの一助として、子どもに関わるステークホルダーとさらに連携を深めていく必要があると思われる。The purpose of this study was to identify the educational benefits and challenges of implementing special needs camps (SNCs) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems. An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs schools to discuss the potential of the camps. The appeal of SNC is that (1) campers, parents, and staff respect each other; (2) the sense of self-affirmation of those involved is enhanced by accumulating real and successful outdoor experiences with people from various communities that are evaluated differently from the educational evaluations of schools; (3) the staff, mainly student volunteers, overcoming various issues with new ideas is an inspiring experience not only for campers but also for parents and staff; (4) people who are not involved in the camp are involved in the camp, and the power of coexistence is enhanced by the experience of sharing concerns and connecting with like-minded people. The challenges to confluining the camp included: (1) difficulties in continuing the camp; (2) the aging of parents of children with disabi	Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)
C 1 実施による教育的効果と課題を明らかにすることを目的とした。 キャンプを実施する団体、青少年教育施設、特別支援学校等のステークホルダーを対象としたインタビュー調査とフォーラムを実施して、キャンプの可能性について議論を深めた。 SNCの魅力として、①キャンパー、保護者、スタッフがそれぞれを尊重すること ②様々なコミュニティの人と一緒に学校の教育評価とは違う評価があふれる野外での実体験・成功体験を積み重ねることで関係者の自己肯定感が高まること ③学生ボランティアを中心としたスタッフが新しい発想で様々な課題を手り越えることがキャンパーはもちろん保護者、スタッフがらいで発表・られる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験とより共生力が高まることが挙少げられた。課題としては、①キャンプを継続する難しき、②障がいのある子のご両親の高齢化問題 ③施設・運営面の課題(スタッフの質と数・資金面・医療(アレルギー)面・パリアフリー・文化(宗教)面等の課題が挙げられた。現在の傾向として安全志向・失敗させない文化・共働き時代となり、自分の子どもの世話だけで精一杯な面など、スペシャルニーズのある子どもないという課題も挙げられる。家族や学生スタッフがキャンプを通して見つけた課題を、キャンプ後に解決を目指すことも多いため、スペシャルニーズのある子どもがよりよく育つための環境づくりの一助として、子どもに関わるステークホルダーとさらに連携を深めていく必要があると思われる。The purpose of this study was to identify the educational benefits and challenges of implementing special needs camps (SNCs) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems. An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs camps (SNCs) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems. An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs schools to discuss the potential of the camps. The appeal of SNC is that (1) campers, parents, and staff respect each other; (2) the sense of self-affirmation of those involved is enhanced by accumulating real and successful outdoor experiences with people from various communities that are evaluated differently from the educational evaluations of schools; (3) the staff, mainly student volunteers, overcoming various issues with new ideas is an inspiring experience not only for campers but also for parents and staff. (4) people who are not involved in the camp included: (1) difficulties in continuing the camp; (2) the aging of parents of children with	JaLC DOI	
Genre Research Paper	Abstract	な配慮や支援を必要とする人たちを対象としたキャンプ(スペシャルニーズ・キャンプ、以下SN C)実施による教育的効果と課題を明らかにすることを目的なした。 キャンプを実施する団体、青少年教育施設、特別支援学校等のステークホルダーを対象としたインタビュー調査とフォーラムを実施して、キャンプの可能性について議論を深めた。 SNCの魅力として、①キャンパー、保護者、スタッフがそれぞれを尊重すること ②様々なコミュニティの人と一緒に学校の教育評価とは違う評価があふれる野外での実体験・成功体験を積み重ねることで関係者の自己肯定感が高まること ②学生ポランティアを中心としたスタッフが新しい発想で様々な課題を乗り越えることがキャンパーはもちろん保護者、スタッフも心揺さぶられる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験となること、②当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験により共生力が高まることが挙げられた。課題としては、①キャンプを継続する難しさ ②障がいのある子のご両親の高齢化問題 ③施設・運営面の課題(スタッフの質と数・資金面・医療(アレルギー)面・パリアフリー・文化(宗教)面等の課題が挙げられた。現在の傾向として安全志向・失敗させない文化・共働き時代となり、自分の子もの世話だけで精ー杯な面など、スペシャルニーズのある子どもと社会に大きな海があり、家族や特別支援学校の仲間と心ある指導者の中だけでは生きられないという課題も挙げられる。家族や学生スタッフがキャンプを通して見つけた課題を、キャンプ後に解決を目指すことも多いため、スペシャルニーズのある子どもがよりよく育つための環境づくりの一助として、子どもに関わるステークホルダーとさらに連携を深めていく必要があると思われる。The purpose of this study was to identify the educational benefits and challenges of implementing special needs camps (SNCs) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems. An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs schools to discuss the potential of the camps. The appeal of SNC is that (1) campers, parents, and staff respect each other; (2) the sense of self-affirmation of those involved is enhanced by accumulating real and successful outdoor experiences with people from various communities that are evaluated differently from the educational evaluations of schools; (3) the staff, mainly student volunteers, overcoming various issues with new ideas is an inspiring experience not only for campers but also for parents and staff; (4) people who are not involved in the camp are involved in the camp, and the power of coexistence is enhanced by the experience of sharing concerns and connecting with like-minded people. The challenges to continuing the camp included: (1) difficulties in continuing the camp; (2) the aging of parents of children with disabilities; and (3) c
URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190059		
	URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190059

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	体育研究所	職名	教授	- 補助額	200	(B)	千円
	氏名	野口 和行	氏名(英語)	Kazuyuki Noguchi		200 (B)	' ' '	

研究課題 (日本語)

特別な支援を必要とする人たちを対象としたキャンプの教育的効果と課題

研究課題 (英訳)

Educational benefits and challenges of camps for people with special needs

て、キャンプの可能性について議論を深めた。

1. 研究成果実績の概要

本研究では、様々な障害や疾患、または経済的な問題や家庭の問題などにより、必要となる特別な配慮や支援を必要とする人たちを対象としたキャンプ(スペシャルニーズ・キャンプ、以下 SNC)実施による教育的効果と課題を明らかにすることを目的とした。 キャンプを実施する団体、青少年教育施設、特別支援学校等のステークホルダーを対象としたインタビュー調査とフォーラムを実施し

SNC の魅力として、①キャンパー、保護者、スタッフがそれぞれを尊重すること ②様々なコミュニティの人と一緒に学校の教育評価とは違う評価があふれる野外での実体験・成功体験を積み重ねることで関係者の自己肯定感が高まること ③学生ボランティアを中心としたスタッフが新しい発想で様々な課題を乗り越えることがキャンパーはもちろん保護者、スタッフも心揺さぶられる経験となること、④ 当事者ではない人がキャンプに関わり、悩みを共有し同じ思いの人がつながる経験により共生力が高まることが挙げられた。

課題としては、①キャンプを継続する難しさ ②障がいのある子のご両親の高齢化問題 ③施設・運営面の課題(スタッフの質と数・資金面・医療(アレルギー)面・バリアフリー・文化(宗教)面等の課題が挙げられた。現在の傾向として安全志向・失敗させない文化・共働き時代となり、自分の子どもの世話だけで精一杯な面など、スペシャルニーズのある子どもと社会に大きな溝があり、家族や特別支援学校の仲間と心ある指導者の中だけでは生きられないという課題も挙げられる。家族や学生スタッフがキャンプを通して見つけた課題を、キャンプ後に解決を目指すことも多いため、スペシャルニーズのある子どもがよりよく育つための環境づくりの一助として、子どもに関わるステークホルダーとさらに連携を深めていく必要があると思われる。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

The purpose of this study was to identify the educational benefits and challenges of implementing special needs camps (SNCs) for people who need special attention and support due to various disabilities, diseases, or financial and family problems.

An interview survey and forum were conducted with stakeholders such as organizations conducting camps, youth education facilities, and special needs schools to discuss the potential of the camps.

The appeal of SNC is that (1) campers, parents, and staff respect each other; (2) the sense of self-affirmation of those involved is enhanced by accumulating real and successful outdoor experiences with people from various communities that are evaluated differently from the educational evaluations of schools; (3) the staff, mainly student volunteers, overcoming various issues with new ideas is an inspiring experience not only for campers but also for parents and staff; (4) people who are not involved in the camp are involved in the camp, and the power of coexistence is enhanced by the experience of sharing concerns and connecting with likeminded people.

The challenges to continuing the camp included: (1) difficulties in continuing the camp; (2) the aging of parents of children with disabilities; and (3) challenges in terms of facilities and management (quality and number of staff, funding, medical (allergy), barrier-free, and cultural (religious) aspects.

Since families and student staff often seek to resolve issues that they find through the camp, there is a need for further collaboration with child-related stakeholders to help create a better environment for children with special needs.

That child related etakenedes to help eredte a petter environment for children with openial needs.								
3. 本研究課題に関する発表								
発表者氏名 (著者・講演者) 発表課題名 (著書名・演題)		発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
石田易司、野口和行、高瀬 宏樹、竹内靖子	キャンプの魅力・課題・環境づくり一発達障害児キャンプに着目して	日本野外教育学会第 22 回大会自 主企画シンポジウム	2020年6月					